

形成外科学

責任者・コーディネーター	形成外科学講座 柏 克彦 教授		
担当講座・学科(分野)	形成外科学講座		
担当教員	柏 克彦 教授、木村 裕明 特任准教授、本多 孝之 講師、長尾 宗朝 講師		
対象学年	4	区分・時間数	講義 18 時間
期間	前期		

・学習方針（講義概要等）

形成外科学（Plastic,Reconstructive and Aesthetic surgery）は、皮膚、皮下軟部組織、硬組織などに起因する先天性または後天性の、主として身体外表に現れた変形（組織欠損、過形成、位置異常、組織学的異常）などを 1. 機能的かつ 2. 形態的に修復し、患者の QOL 向上を旨とする治療外科学の一分野である。現在の医療水準に見合った、形成外科臨床に必要な基礎知識の習得を目標に講義を行う。講義内容に含まれる、本領域疾患・外傷の病態、診断、基本的治療法を学ぶとともに、これを基礎・臨床を問わず、関連する分野の内容に結び付け、領域を問わない総合的学習を目標とする。また、講義内容に関わるグループ学習を通し、課題に対する自己解決能力の育成を図る。

シラバスに記載されている次回の授業内容を確認し、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低 30 分を要する。課題が与えられたグループは、該当する講義までにレポートを作成し、発表の準備を行っておくこと。本内容は全授業に対して該当するものとする。

・教育成果（アウトカム）

1. 具体的症例提示字を含む講義と与えられた課題に対するグループ発表などなどを通して、形成外科にかかわる疾患の病態とその診断法、治療法を学ぶことにより、一般の臨床医が有すべき形成外科学の基礎知識、ならびに国家試験コアカリ関連項目の知識と応用力を獲得する。
2. 形成外科に関連する領域の知識を、本講義と結びつけて学習することにより、総合的な知識と学習能力を獲得する。
3. 形成外科の疾患を学ぶことにより、疾病や障害を有する患者への適切な配慮と接遇態度を身に着ける。

・到達目標（SBO）

1. 形成外科の目的から派生する対象疾患の範囲と形成外科的診療を説明できる。
2. 創傷治癒過程を理解し説明できる。
3. 先天異常の病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
4. 顔面・四肢外傷の病態と診断、初期治療に関する基礎知識を説明できる。
5. 熱傷の病態と診断、初期治療を含む診療手技と予後について説明できる。

6. 癬痕・肥厚性癬痕・ケロイドの病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
7. 皮膚縫合や局所皮弁の方法と原理、効果を図示し説明できる。
8. 代表的皮膚良性腫瘍、母斑症、血管腫・血管奇形の病態と診断、基本的治療法を説明できる。
9. 代表的皮膚悪性腫瘍の病態と診断、基本的治療法を説明できる。
10. 難治性潰瘍の要因と病態、診断、基本的治療法について説明できる。
11. 皮弁、植皮を含む組織移植の基礎事項を理解し、その種類と特徴、生着過程が説明できる。
12. 体表に病変を抱える患者さんやご家族に対し、適切な接遇を身に着ける。
13. informed consent の意義と方法について理解し、実践できる。

・ 講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

【講義】

月日	曜日	時限	講座(学科)	担当教員	講義内容
5/13	金	3	形成外科学講座	柏 克彦 教授	形成外科の歴史意義～他領域との関連性
5/13	金	4	形成外科学講座	柏 克彦 教授	形成外科における診察・診断・治療法
5/20	金	3	形成外科学講座	木村 裕明 特任准教授	創傷治癒
5/20	金	4	形成外科学講座	木村 裕明 特任准教授	顔面外傷
5/27	金	3	形成外科学講座	柏 克彦 教授	形成外科における組織移植
5/27	金	4	形成外科学講座	柏 克彦 教授	熱傷・難治性創傷
6/3	金	3	形成外科学講座	本多 孝之 講師	顎顔面の発生・発育と先天異常（唇顎口蓋裂、耳、頭頸部など）
6/3	金	4	形成外科学講座	本多 孝之 講師	四肢・体幹の発生・発育と先天異常、手足の外傷
6/10	金	3	形成外科学講座	長尾 宗朝 講師	皮膚良性腫瘍と母斑・血管腫・血管奇形
6/10	金	4	形成外科学講座	長尾 宗朝 講師	悪性腫瘍とその再建
6/17	金	3	形成外科学講座	柏 克彦 教授	試験に関わる形成外科学（+小テスト）
6/17	金	4	形成外科学講座	柏 克彦 教授	整容・その他の疾患

・教科書・参考書等

教：教科書 参：参考書 推：推薦図書

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	標準形成外科学 6 版	平林慎一、鈴木茂彦 編	医学書院	2011
参	形成外科 (新外科学大系 29 卷 A-D、追補 4 冊)	福田修、宮本義洋、谷野隆三郎、波利井清紀、今村正之	中山書店	1987
参	図説臨床形成外科講座 全 8 巻	添田周吾 他編	メジカルビュー社	1987
推	Plastic surgery 3rd ed. 6vols	Peter C. Neligan	Saunders Elsevier	2013
参	Grabb's encyclopedia of flaps 4th ed.	Berish Strauch 他	LWW	2015
参	口唇裂・口蓋裂の基礎と臨床	高橋庄二郎 著	日本歯科評論社	1996
参	よくわかる子どものための形成外科	中島龍夫編	永井書店	2005
参	手の外科の実際 改訂 7 版	津下健哉 著	南江堂	2011
教	TEXT 形成外科学 2 版	森口隆彦 他編	南山堂	2004
推	形成外科手術書 [改訂第 4 版) 基礎編・実際編	鬼塚卓弥	南江堂	2007
推	創傷のすべて	市岡滋 監修	克誠堂出版	2012
推	形成外科診療プラクティス 形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療	山本有平 他編	文光堂	2009
推	形成外科診療プラクティス 皮弁外科・マイクロサージャリーの実際	百束比古 他編	文光堂	2010
推	使える皮弁術 (上・下巻)	百束比古 他編	全日本病院出版会	2010

・成績評価方法

出席と小テスト、試験成績により評価する。

・特記事項・その他

*各講義時間内に、学生各班に課題を担当してもらい、ミニ PBL を行う予定です。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノートパソコン一式	1	スライド等提示
講義	ポインター	1	スライド等提示
講義	プロジェクター	1	スライド等提示